

もっと安心農産物 (エコ認証) ズッキーニ 栽培暦 (令和2年度)

JAちばみどり 海上野菜組合ズッキーニ部

1. 土づくり

・堆肥の施用と化学肥料由来の窒素成分を抑制した施肥の実施

2. 施肥 ☆ 土壌診断にもとづく施肥量の遵守 ★ 半促成栽培 化成態由来窒素 限界量 11.5kg

	肥料名	施肥量
基肥 (①・②・③は選択) 特に③施用時は化成由来窒素の 超過に十分注意する。	① 果族円満(8-10-4)有機態窒素4.0 または	150kg/10a以下
	② 有機味好2号(7-2-7)有機態窒素7.0 または	300kg/10a以下
	③ 粒状石灰窒素(21-0-0)	40kg/10a以下
	④ みどりマグ	80kg/10a以下
	⑤ けい酸加里(0-0-20)	80kg/10a以下
追肥	⑥ トミー液肥グリーン (6-8-8) 有機態窒素0.3 または	40kg/10a 以下
	⑦ ランセット N (6-3-1) 有機態窒素3.0	40kg/10a 以下

3. 防除 ★ 化学合成農薬 6使用成分回数まで(購入苗の使用は無い)

月	管理 作業	病虫害 の発生 推移	薬剤名	希釈・倍数 ・処理量	対象病虫害	使用時期 (収穫前日数)
11月上旬	作付前	うどんこ病・ 灰色かび病・軟腐病・ コナジラミ・アザミウマ・ アブラムシ・オオタバコガ・ ヨトウムシ	キルパー	60L/10a	(前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死)	前作の栽培終了後から残渣撤去まで(但し、播種又は定植の15日前まで)
中旬	播種		ネマトリンエース粒剤	20kg/10a	ネコフセンチュウ	定植前(全面土壌混和)
下旬	定植		ベストガード粒剤	1~2g/株	アザミウマ類	定植時
12月上旬			アフェットフロアブル	2000倍	うどんこ病	前日まで
中旬			チェス顆粒水和剤	5000倍	アブラムシ類	前日まで
下旬			ウララ DF	2000~4000倍	アブラムシ類	前日まで
1月上旬			モスピランジェット	くん煙容積 400 m ³ :50g	アブラムシ類	前日まで
			スタークル顆粒水溶剤	2000倍	アブラムシ類	前日まで
			アフーム乳剤	2000倍	オオタバコガ	3日前まで
			トリフミンジェット	くん煙容積 400 m ³ :50g	うどんこ病	前日まで
中旬			スターナ水和剤	1000倍	軟腐細菌病	前日まで
下旬			ダコニール1000	1000倍	うどんこ病	前日まで
2月上旬	トップジン M 水和剤		1500倍	うどんこ病	前日まで	
中旬	プレバソンフロアブル5		1000倍	ハモグリバエ類	前日まで	
下旬	ベルコート水和剤		2000倍	うどんこ病	前日まで	
3月上旬	カスケード乳剤		2000倍	トマトハモグリバエ	前日まで	
	アドマイヤーフロアブル		4000倍	アブラムシ類	前日まで	
	モベントフロアブル		2000倍	アブラムシ類 コナジラミ類	前日まで	
	アカリタッチ乳剤		2000倍	うどんこ病	前日まで	
4月上旬			1000~3000倍	ハダニ類		
中旬	ガッテン乳剤	5000倍	うどんこ病	前日まで		
下旬	トマトーン	50倍	(着果促進)	開花当日・花に1回		
5月上旬						
中旬						

<化学合成農薬に含めない薬剤>			
薬剤名	希釈・倍数 ・処理量	対象病害虫	使用時期 (収穫前日数)
ゴツツA	500倍	コナジラミ類 アブラムシ類	発生初期
		うどんこ病	発病前～発病初期まで
ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、オオタバコガ	発生初期 (但し、収穫前日まで)
ボトキラー水和剤	10～15g /10a/日	灰色かび病	発病前～発病初期まで ダクト内投入
ジーファイン水和剤	750～1000倍	うどんこ病	前日まで
	1000倍	軟腐病	
カリグリーン	800～1000倍	うどんこ病	前日まで
	800倍	灰色かび病	
Zボルドー	500倍	軟腐細菌病 軟腐病	—
イオウフロアブル	500～1000倍	うどんこ病	—
硫黄粉剤50	3kg/10a	うどんこ病	—

(耕種的防除の実施等)

- (1) 育苗床・本圃では、換気(サイド)・出入口にネットを張り(網目:1mm以下)外部からの害虫進入を防ぐ。
- (2) 育苗床にて、黄色粘着版設置による害虫把握及び初期防除により本圃へ害虫持込をなくす。
- (3) 筆や綿棒を用いて、なるべく農薬に頼らない人工交配で着果促進を行う←この内容でよいかご検討ください！！

みんなで守ろう生産基準